札幌社保協 FAXニュース

２００８年 １２月18日(木)
社保協事務局　発行
TEL823-0867　Fax821-3701
E-mail:s-syaho@kin-ikyo.or.jp
http://www.sapporo-syahokyo.jp/

札幌社保協結成10周年記念レセプションは、09年1月10日(土)です。ホテルノースシティ

交通費助成削減反対「連絡会」を結成

12/13午後、交通権を考える連絡協議会、障道協、札幌腎友会などが呼びかけて、「札幌市の障がい者交通費助成削減に反対する連絡会」が結成されました。会には45人が参加しました。

市は障がい者・市民の世論の前に09年4月からの助成削減案実施を見送りましたが、2010年実施を目標に09年6月議会に「見なおし案」を出すと言っています。そこで多くの障害者団体や個人に呼びかけて、反対の運動をすすめるために結成されたものです(18日までに17団体)。

議論の中では、障道協の片石会長が39年前に始まった障がい者の交通費助成の運動を語り、長い運動の成果でこの制度が対象者や助成額を広げ、障がい者の社会参加に役立ってきたことを紹介しました。

集会では、集会アピールを確認し、会長に後藤昌男交通権を考える連絡協議会会長、事務局には障道協を選出しました。

今後は多くの団体・個人に連絡会への参加を呼びかけながら、現在18,000の削減反対署名を20,000をめざし、統一要望書を作って市との交渉などを行う計画です。

「福祉灯油」 実施を！－陳情は継続に

左:宇苗さん、右:長谷川さん

「福祉灯油の実施を求める」陳情（札幌社保協、道生連提出、署名2492人）は、12/9の市議会厚生委員会で審議され、趣旨説明が行われました。

東区守る会の宇苗さんは、自分の生活実態から、まだまだ高い灯油と諸物価の高騰できびしい生活を強いられていること、福祉灯油をぜひ実施してほしいと訴えました。

新婦人道本部の長谷川事務局長は、新婦人の生活実態調査を基に、多くの家庭が暖房や食費を削って生活していることを示して、福祉灯油実施を要望しました。

市側は「灯油価格が安定してきている状況である、あったか応援資金の拡充で対応したい」の繰り返しでした。共産党は実施を迫りましたが、10月には要求していた自民党・公明党はあまり強調せず、陳情は継続となりました。

生保・国保・税金など区に申し入れ－北区社保協

１２月１０日、北区社保協が北区長交渉に向けた、要望書提出を行いました。提出の際の説明では、参加団体より、行政側の窓口対応についてに意見が続出しました。

生活と健康を守る会からは、生活保護受給者への執拗な就労指導、人の命をないがしろにする国保資格書の発行、民商からは、病人の生命保険をも差し押さえする人権無視の税金取立、納付相談に行ったのに「支払えなければ差し押さえする」などの脅迫的対応などが出されました。

区役所からは、「文書で回答する」にとどまり、改めて「要望書補足」を提出し、関係当事者への処遇を明らかとするよう求めました。

今回は、生活保護、国保、住民税・固定資産税、特定健診・特定保健指導について18の要望項目を出しています。回答に基づく交渉は1月28日に予定しています。